

< 認知症対応型共同生活介護用 >

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4676700083
法人名	社会福祉法人 やっちく会
事業所名	グループホーム松山あじさい
訪問調査日	平成 20 年 3 月 28 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 13 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4676700083
法人名	社会福祉法人 やっちく会
事業所名	グループホーム 松山あじさい
所在地	鹿児島県志布志市松山町泰野字松ヶ迫1139番地-1 (電話) 099 - 487 - 8200

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年3月28日   評価確定日   平成20年5月13日

【情報提供票より】20年2月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 30 日
ユニット数	2ユニット   利用定員数計 18 人
職員数	16 人   常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 16 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 1階 ~ 階部分
------	---------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円光熱費込み	その他の経費(月額)	500円他実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

### (4) 利用者の概要( 2月29日現在 )

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	8 名
要介護5	0 名	要支援2	名
年齢	平均 84.7 歳	最低 73 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山下クリニック・中原歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘に建つホームから、遠く大隈の山々が望め眼下にはのどかな松山の田園風景が広がる。広い敷地には同法人の特別養護老人ホームがあり、季節の行事をとうして交流がもたれ、一つの共同体が作られている。ゆったりとしたのしく馴染みの環境で安心して生活できるようにと、職員は過剰な支援、干渉を控え個人に合わせた支援に取り組んでいる。また、隣接する関連施設と共に、夜間の消防訓練を消防署の指導のもと近隣住民も参加して行うなど、防災面にも配慮している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については職員に伝えられ改善点についても知ってはいたが、管理者の交代、職員の入れ替わりなどもあり、改善に向けた継続的な取り組みを行うまでには至っていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に自己評価票に記入してもらい出来上がった後で、管理者と主任で話し合っ作作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成19年2月より2ヶ月に1回推進会議を行っている。参加者に対して、ホームの状況、行事報告をした後に各人の意見交換、施設サービスへの要望など話し合っている。また、ホーム独自で評価チェック表を作り参加者にチェックしてもらってサービスの向上に役立っている。地域住民からは行事の情報を得て、入居者が参加出来る行事には参加している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を置いたり、家族会も年2回行われ苦情や意見を出して頂けるようにしている。家族が面会に来た時に管理者や計画作成担当者がいない場合、話がにくい様子がかがわれるので、職員一人ひとりが入居者の御家族を認識できるようにし、多くの意見を頂いて運営に反映できるように期待します。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	同法人の特別養護老人ホームと一緒に運動会、夏祭りには地域の方々も参加され、地域で行うやっちく祭りには入居者も参加し交流している。ボランティアや学生の職場体験なども受け入れ、夜間に行う防災訓練は、地域の方々と共にしている。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆったりと、たのしく、馴染みの環境の中で安心して暮らせるように支援しますという理念を掲げ、過剰な支援、干渉を控え、個人に合わせたケアを行っている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼は2ユニット一緒に申し送りも合同で行い、同じサービスを提供できるように情報の共有をしている。朝礼時に理念を全員で唱和してからケアに当たっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同法人の特別養護老人ホームと一緒に運動会や夏祭りには、地域の方々も参加され、地域で行うやっちく祭りには、入居者も参加して交流している。ボランティアや学生の職場体験も受け入れている。		入居者の中には近隣の方も多くおり、事業所は地域老人会とも交流を広げて行きたいと希望しているので、今後の活動に期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については職員が評価票に記入した後で、管理者と計画作成担当で話し合い作成している。昨年の外部評価の改善点について職員には伝えられており、スタッフ会議でも話し合いがなされたが、管理者の交代や職員の異動などで改善に向けての取り組みはなされていない。		昨年の外部評価の改善点を改善シートを活用し職員全員で話し合い、改善に向けた取り組みが継続的に進められるように期待します。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年2月より2ヶ月に1回行っている。事業所の現状や行事報告などの後に参加者各人の意見交換、ホーム独自に行なった推進会議参加者のアンケートの評価チェック表をもとに話し合いを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設主催の夏祭りには市職員にも参加してもらったり、福祉相談や外部評価の事でも相談している。		管理者は市町村担当者の研修場所に事業所を提供していきたいと考えており、交流を深めることでサービスの向上につながる事を期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	あじさい便りには写真が多く使われ日々の生活の様子を伝えており、これを請求書と一緒に同封して家族に送っている。健康状態については、電話で報告し面会時にも説明している。		あじさい便りには職員の異動等について記載されておらず、家族に情報を提供できるように工夫されることを希望します。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年2回行事に合わせて行われ、職員も一緒に参加し意見や要望を出して頂く機会を設けている。家族から個別相談された内容については、申し送りノートで伝達し職員で共有しケアに活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に伴う引継ぎ期間は十分に取れないのが現状であるが、ユニット間で協力しあい慣れた職員が手助けすることでダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の施設と一緒に毎月テーマを決めて勉強会を行っている。また、認知症に関する勉強会は月に1回曾於市の病院が主催する夜明け会に参加しており、内容については職員会議で発表し共有している。		施設全体の勉強会や認知症の勉強会に参加することで職員のスキルアップにつながっているが、新人教育のマニュアルを作成することで早い期間に職員を一定水準に育てることができるのではないかと期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所を立ち上げる時に他のホームに研修に行っており、その事業所とは現在も交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>他の</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	施設や病院からの入所が多く、本人が殆ど見に来ることが出来ない場合は、家族にきてもらい何度も話し合いをしている。入所後も家族の協力を得て、家の備品を持ってきてもらったり、泊まってもらうなど徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者は地域の方が多いため山菜採りに行き、種類や採る場所を教えてもらったり、梅干し作りや料理を教わってもらっている。また、一緒にゲートボールや将棋などを行うことによって楽しみを共にしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	アセスメントで生活歴を知り、本人の希望や意向を把握している。把握の困難な人は、職員とのコミュニケーションの中で意見を出し合い意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	カンファレンスは職員全員で行い、担当入居者について提案したことなどを反映した介護計画を作成している。		3ヶ月に1回のモニタリングは行われているが、カンファレンスについては毎月きちんとできていないと計画作成担当者は感じているので、今後は毎月1回できるように望みます。
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	申し送りノートに日々の気づきをかいていき、定期的な見直しを行うときの参考にしている。急変時の対応については、すぐに見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて病院受診に付き添っている。重度化した場合や緊急時には、往診をしてもらい入院の回避に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向を伺い、納得したかかりつけ医となっている。職員が通院介助に付き添った場合に家族には、電話で報告し情報を共有している。緊急時には往診もお願いできる体制も整っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開所2年足らずだが看取りを行った経験もある。家族が希望されれば看取りも行える体制も整っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の呼び方はアセスメントを参考に一番良い呼び方をしている。職員は声かけにも注意を払い、職員同士の会話の中では、個人名を使わないように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は本人の意思を尊重している。タバコもベランダで吸うことができるし、散歩も近隣はいつでもいける。買い物に行きたい人には、車で連れて行くなど希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の好みや希望を取り入れその日その日に決めている。入居者と職員は同じテーブルを囲み会話をしながら楽しく食事をしている。後片付けは入居者の力量に応じて手伝っている。		管理者は今後3ヶ月に1回程度、外食や戸外での食事を楽しみたいと希望している。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に2日と入浴予定を決めているが、希望や状況に応じていつでも入浴することができる。入浴チェック表をつけていて、足浴や部分浴も入居者にに応じて加えている。拒否のある方に対しては、声かけ時間をずらしたり、馴染みの職員が誘ったりと工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は一人ひとりの生活歴を把握しており、ホームのまわりの草取りや花植え、季節の野菜植えをしてもらったり、趣味の将棋、詩吟、ゲートボールなどをして楽しみごとをもっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年数回ある行事、花見や海にいったり、紅葉狩りなどは両ユニットで行い交流を深めている。毎日の散歩の中で、山菜採りや買い物兼ねたドライブなど希望にそった支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に鍵はかけていないが死角の多いユニットにはセンサーがつけてある。外出傾向のある人の把握はしているが、時間帯によっては鍵をする時もある。地域の方には理解を求めており外出した人を見かけ連絡して頂いたこともある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、事業所独自で年2回併設施設と合同で防災訓練を行っている。夜間の訓練にも近隣住民が参加している。非常食、水の備蓄もなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はその日ごとにきめているがカロリーー日の摂取量の把握はあまり考えていない。体重測定を月1回おこなっていて、大きな変化は見受けられない。水分量はチェックして把握している。		体重測定や血液検査の結果に変化が見られないとしても食事は健康維持の源であるので、栄養のバランスなど専門家にチェックしてもらう事を希望します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は脚にやさしいクッションフロアになっていて、トイレの壁の色を違えたり、カーテンの色を3色使って自分の部屋が分かり易いように工夫している。リビングにはテレビとソファのコーナーと7・5畳の畳のコーナーがある。畳のコーナーには仏壇が置いてあり、床の間には季節の花が活けてある。入居者はそれぞれ思い思いの場所で過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室の入り口には、木枠で表札のように名前が入っている。クローゼット、整理タンス、ベットは備え付けになっているが、布団や椅子は使い慣れたものを持ってきている。壁には家族との写真や自分で作ったカレンダーが掛けてあり、クッション、鉢植え、位牌などを置いて本人らしい部屋になっている。		